

これからの被災地・避難者支援に必要なこと

1 これからの日本人の生き方を考える。実行する。

2 どうしたら「お父さん」が移住できるか

3 お金を集め続けるしくみをみんなでつくる

4 自分ごととして

5 それぞれの支援  
保養→短期  
避難→中期  
移住→長期

6 避難者の方の要望を聞く

7 安心して暮らせる環境

8	岡山の情報を伝える
9	「自分ごと」としての継続性
10	保養プラン実地
11	ニーズの掘り起こし、それに対するマンパワーの掘りこしと蓄え
12	生き方革命
13	きめ細かい支援や声がきこえるような何か仕組みが欲しい
14	当事者や現地のニーズが知りたい。

15	経済的に切迫した状況を少しでも解決するために行政の自主避難についても支援が必要
16	いろんな会に参加して生のお声を聴くことでどんな支援を望まれているか知ることから始める。
17	日々の生活の中で被災地、被災者のことを気に留めること。
18	本当の情報に基づいた安全附持
19	気持ちをどう支援したらよいか。
20	元気の出る支援(音楽など) 考えたい。
21	ボランティアに行ったときはあまり声を聞くことができなかったが、故郷を離れた辛い思いをきいて避難された方の前に進みたいという心の受け入れ方は？排他的、無関心と聞いている県民性。高梁では？
22	玉川さんのお話、投げださず考え続けていきたい。福島状況。“希望”“前向きに”まで気持ち が、、、出口が見えない3.11以降、精神的におかしい、むなしい。玉川さんのお話、展開はやく、 ついていけなかった。鈴木さんの過酷な話

23	福島の問題は難しい。戻れない方たちは思い出すとつらいので関連の行事には参加できないと聞く。移住、定住支援といった相談会にでたりしても来られた方をきちんと支援できていないのでは。
24	東北復興支援、原発災害の支援、まったく別のもの。岩手のボランティアとの関係、原発問題とは結びつかない。岡山に移住された方の話を聞き、自分にできることを考えたい。
25	<居場所づくり> 岡山に避難された方たちがホットにできる居場所づくり(情報交換、相談などを含む)
26	現場に行く
27	避難者→移住者の気持ちを尊重し、受け止める場
28	避難者を受け入れるための体制づくりが必要。住居、仕事などの情報をまとめて発信する。
29	個々の問題を聞きたい、お手伝いすること※引っ越し支援、イベント支援

30	被災地にいる子供たちのケア
31	被災者の思いを聞く
32	心理的なケア、傾聴ボランティア、心理的なワークショップ、生活再建のステップを歩み合わせ作ること。メンタルケア
33	思いやり
34	人々の話を聞くこと→行動へつなぐ
35	地元の方をお願いしたいこと。避難者の声をとおして何が起きているのかを伝える場を
36	体のケア、整体、カイロプラスチックなど、医療上の心配へのケアも(放射能、その他)

37	情報提供
38	(生の)情報
39	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい情報</li> <li>・甲状腺検査、血液検査</li> <li>・子どもの保養</li> <li>・幼稚園、学校にお弁当持参を自由に！</li> </ul> →子どもを守る！
40	なにをしてあげるかを一緒に考えること
41	現場を知る話を聞く
42	寄り添っていく福島と岡山をつなげていく
43	<p>持続可能な支援 それを支える「こども・被災地支援法」によるバックアップ</p>
44	過度の気遣いをしない。避難者に対しても、普通の引越者のような扱いでよい。ただ、最低限の気遣いは要。

45	「絆」という言葉の使用制限。この2年の間、ずいぶん薄っぺらい言葉になってしまった。
46	<p>体験（経験）情報の発信</p> <p>いいこと、悪いこと つらいこと、困ったこと</p>
47	<p>自分は東京出身からだが、母子避難をしているため、鈴木さんの話が自分のことのように、自分と重なった。まだ311はおわってなく、現在進行中。</p>
48	<p>思いを発信できる</p>
49	<p>「忘れないこと」</p> <p>被災者の方からしたら、一生の車、その年齢、その年齢でしか支援できない車があるから、2013、3、16現在、何歳かその型がそれぞれ10年、20年と都市を重ねるごとにニーズは変化してゆく。それに対して、よりそってゆくこと、そして、その姿勢は私たちの生活にも生かすことができるかもしれない。</p>
50	<p>被災地・避難者の方々がお互いに会話できる場づくり</p>
51	<p>情報収集 発信</p>

52	交流の場(細やかな)
53	被災地に住む人や避難者の人々の想いを知ること 気軽に話すことのできる機会をつくること
54	お父さんの存在→男としてできること



## 自分にできること

1 現状を知り考えること

2 行政に提言

3 市民レベル→ふつうに「引っ越ししてきた人」として接する  
行政→雇用

4 単身者移住のコミュニティー

5 「子ども」たちとの交流(お母さんたちの会の中の男性保育)  
(自分の得意分野で)

6 関心を持つ  
忘れない

7 「岡山、意外と都会よ」  
→東日本の友人に伝える

8	同じ意見を持つ人と政策提言
9	他人事でなく当事者意識をもつ
10	声に耳を傾ける、まず知ること
11	まず、現状(二年経って)のことを知ることので何ができるかを考えたい
12	「災害弱者」について知ってもらおう取り組み(障がい者として)
13	話す。だれとでもどこでも自由な心で。
14	一人じゃない！と伝えること。
15	前進する

16	知る
17	避難者にかぎらず、困っている人の心によりそう。 立場が違う人、嫌いな人。共感力を鍛える。
18	「今岡山はすごいことになってるよ」→この会場に来ない人に伝える
19	辛い。「自分にできること」あるかしら。でも「ある！」語りかけ、自分を助けるように。協働し、人々によりそうことあり。と想い、願う
20	重い気持ちを抱えているので、休み休み、このような話し合いの場に出てきて、被災地のこと、避難者のことを直接伝えたいです。
21	福島にいる祖父母に1週間に1回は電話しようと思います。
22	自分にできることは小さなことなので誰かとつながりたい

23	現地に行ける機会を多くしたい。被災地に行かなくてもできるボランティアもあると思うので考えたい。ずっと原発反対を言い続ける。
24	こころのケア 話をしていただき、聞く。そして一緒に考える。
25	環境やスピリチュアティについての提案
26	被災地へ入り続けること
27	伝えること、仲間を増やすこと、黙って働くこと
28	現場の情報を収集する
29	被災地のこどもと遊ぶ（山、川、海、まち、、、

30	ずっと支援を一生続ける
31	<子どもと一緒に遊ぶ> 避難者が集まれる場への参加
32	休みごとのうけいれ、保養活動（福島、関東、東北の親子）
33	年に一度は福島・東北に行って、声を聴き、それを岡山の人に伝える
34	他の地域の取り組みを伝える、へだたりののりづけ
35	被災者の人々のネットワークづくり
36	こんかいのような機会に参加する
37	今年こそ、石巻の子どもたちを新見に招待して交流する。

38	岩手山田町の漁師さんとのネットワークづくり
39	自分の目で見ると
40	話を聞く
41	進んでコミュニケーションをとっていく
42	話しを聞くこと 寄付
43	共有すること 寄り添うこと
44	他の人にもお知らせして一緒に行動すること

45	話をする 伝えること
46	OKFOODの情報提供 思いの共有 また夢だけのお母さんたちが安心して食材を買える店を作りたい
47	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 保養の受け入れ</li><li>・ これからもつながりをつくっていくこと</li><li>・ 希望をもつこと</li></ul>
48	西日本の人にも傷ついている、ともに苦しんで悩んでいるを東日本の人に伝えたい
49	スポンサー探し
50	「住まい」情報の提供
51	「職」探し

52	声を聞く立場交流会に参加する
53	今日、聞かせていただいたことを家族や職場の人などに伝えることで少しでも理解を広めていきたい
54	被災地の人々の現状を岡山の人に知らせ情報を共有する 理解→活動へ
55	時間をかけて考えること、動かすこと
56	大学生なので若い世代に対してのアプローチ



たすけあいネットに期待すること

1 顔を合わせる

2 雇用促進

3 空き家バンク

4 OFF会を

5 楽しく

6 交流・話し合いの場

7 継続した活動

8	協働のための情報
9	行政・政治家マスコミを動かす力
10	情報の共有をして自分にできる課題にアクセスできる
11	人と出会いつながる
12	支援者・被災者 ともに弱い立場なので、弱いちいさな声をしみとれるように
13	一般の人が目にするマスコミ、広報誌に当事者の声をのせる→理解を広げる
14	大人に遊んでもらいたい

15	避難者といっても人それぞれの悩みがあります。個別の悩みに対応するサポート体制(戸別訪問)が必要
16	岡山県の防災ネットワークの向上
17	三重県のように法人、個人のネットワークを作ること。そして発信していくこと。
18	情報の発信と共有 1、仲間などを募る 2、活動の紹介 3、グループの横のつながりができること
19	避難してきた方の存在が地域の中で見えにくくなっているのを、なにかあればアクセスできるわかりやすい窓口
20	南海トラフに備えること
21	災害発生時の相互支援、資機材の共有

22	支援団体の支援内容の広報
23	ボランティアする人が継続しやすくしてほしい
24	避難者がゆるやかにつながる場を提供いただき支える場になってほしいです。
25	支援者・団体が長く続くように、資金も含めたサポート
26	自立していくことで、岡山にある、311前からある問題解決にもつながるよう期待
27	当事者であることを意識する
28	震災を風化させないよう情報、体験の広報共有を。
29	発信力を持つ

30	他県の被災地へ入る際に共同でバスを出すなどして出費を抑える
31	東北行のバス企画
32	岡山県内の被災者、支援者と顔の見えるみんなみかた
33	情報提供、コーディネート、支援を必要とする人とする人のコーディネート
34	岡山の支援団体のプラットフォームになること
35	わかりやすく(交通整理して)情報を伝えること ・出会いの場、話し合いの場を作ること
36	(生の)情報開示

37	情報が少ないので多くの人に知らせてほしい
38	活動紹介
39	知りたいことがたくさんあり、たくさんのことを教えてほしい
40	つながろうとせず内にこもってしまっている方への援助
41	団体の存在が広まって多くの人々や企業、団体からの支援が得られるといいですね 移住や移住支援につながることに期待！
42	東北地区のようにかつて経験を伝承すること。東北では命を拾った人もおられる。
43	お互いを知る

**44** 情報共有

**45** 一人一芸

**46** 情報の共有化（知恵が集まれば何もかもできる）